

研究部会 活動報告書（2024 年度）

研究部会の名称

廃棄物焼却研究部会

研究部会の活動目的

人口減少・少子高齢化の進展、大規模災害の頻発化・激甚化、気候変動に伴う影響の深刻化、インフラ老朽化、さらには ICT等の先進技術の活用といった社会変化を背景に、脱炭素社会の実現に向けて廃棄物処理のあり方が今後多様化していくものと思われる。

当部会では、今後の廃棄物処理（焼却処理を中心に）のあり方について情報整理、議論し、成果を社会に還元することを当面の活動目的とする。

研究部会の設置期間 年のうち、今年度は 年目

当該年度の活動実績

活動実績を冊子体などにまとめている場合は、それを提出してください。
そうでない場合は、以下に活動実績を記述してください。

- ① 年次研究発表会における企画セッション設定の有無 （☒ 有 ） ←どちらかに○
（「有」の場合 ⇒ 企画セッション名とその概要と総括）

企画セッション名：脱炭素社会に向けた一般廃棄物焼却施設のあり方

セッションの概要と総括：

<概要>

日本国内の温室効果ガス排出量を2030年に46%削減し、2050年にはカーボンニュートラルを達成するという高い目標が掲げられている。一般廃棄物焼却施設においても、その目標に沿うよう、エネルギー回収やCCUS技術の導入を着実に進めていくことが重要である。

そこで当部会では、一般廃棄物焼却施設の2050年カーボンニュートラルに向けて、そこに行きつく途中段階（2030年、2040年）も含めた一般廃棄物焼却施設のあるべき姿を探る。

■講演

- 趣旨説明（京都大学 高岡 昌輝）
- 2050年カーボンニュートラルに向けた段階的なCO2削減目標の設定
（株式会社プランテック 掃部 宏文）
- CO2削減目標を達成するためのシナリオ検討
（株式会社タクマ 森岡 泰樹）
- CO2削減シナリオの感度分析
（川崎重工業株式会社 岩村 宗千代）
- まとめ（京都大学 大下 和徹）

<総括>

ハイブリッド開催であったが、現地60名、オンラインは25名であった。多くの方に参加頂き、幅広く情報発信することができたことから、有意義な企画セッションであったと考えており、今後もさらなる情報発信に努めていきたい。

② 研究部会独自の活動について

①有料セミナー

- ・セミナー名:脱炭素社会に向けた一般廃棄物焼却施設のあり方に関するセミナー
- ・セッション概要:
上記の企画セッションの続きとして、地域レベルでのCO2削減シナリオを検討するため関西の2府県を対象としたケーススタディを実施した内容を報告

②研究会

別シート参照

③見学会

今年度は有料セミナー準備のため中止

④部会員による研究分担

- ・時事のテーマについて、部会員で分担して研究し、研究会・その他会議にて意見交換(別シート参照)

④ホームページによる情報発信

- ・公式活動と成果については、資料を含めてホームページで公開
- ・部会活動については部会員限定のホームページで資料、議事録等公開